

第3期

音威子府村

まち・ひと・しごと

創生総合戦略



音威子府村公式キャラクター おとつきー

1人ひとりの匠が活躍する村

目次

I. 総合戦略について	1
・ 策定の趣旨	1
・ 対象期間	1
・ 音威子府村まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけ	2
・ 評価・検証の仕組み	3
II. 音威子府村の総合戦略の基本的な視点	4
・ 音威子府村の強みと人口問題への対応	4
III. 音威子府村の総合戦略	6
・ 音威子府村の総合戦略の全体像	6
1. 村の振興の要となる高等学校の機能強化	7
① おと高の仕組みの強化	7
2. 卒業生の雇用の場の創出や多様な人材活躍・企業活躍の推進	9
① 地元企業等への就業者雇用の促進及び起業支援、商工業担い手確保	9
② 新規就農者・農業後継者の育成強化	10
3. おと高を軸とした人の流れ、卒業生や村外の人々とのつながりを築き、全ての世代が暮らしやすいまちづくりの推進	11
① おと高卒業生のUターンや若者のIターン、新規移住者の定住の促進	11
② おと高を活用した交流拡大と関係人口の創出	12
③ 学校間連携の強化	13
④ 安心して結婚・出産・子育てのできる環境の整備	13
4. おと高生参加による個性的で安心して暮らすことができる魅力あるまちづくり	15
① おと高生や卒業生のまちづくりへの参加促進	15
② 時代にあった生活基盤の維持・確保、未来技術の活用による地域課題の解決	16

※本総合戦略では「おといねっぶ美術工芸高等学校」を全て「おと高」と表記します

I. 総合戦略について

◇策定の趣旨

国は将来にわたって「活力ある地域社会」の実現と、「東京圏への一極集中」是正を共に目指すため、「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、従来の枠組みを維持しつつ、必要な強化を行う方向で見直しを行いました。住民一人ひとりがそれぞれ暮らす地域の交流の中で、豊かさと生活の充実感を享受できるように「稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする」「地方とのつながりを築き、地方への新しい人の流れをつくる」「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」「ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる」という4つの基本目標と、「多様な人材の活躍を推進する」「新しい時代の流れを力にする」という2つの横断的な目標を提示しています。

音威子府村においても、社会的な少子高齢化の影響や、札幌市や旭川市といった都市部への若者を中心とした人口の流出等により、1990年の1,584人から2020年には706人(30年間で878人の減少)にまで人口が減少しています。また、「音威子府村人口ビジョン」(以下人口ビジョン)で示したように、本村のすう勢人口は、今後も減少傾向で推移し、2030年には556人程度、さらに2060年には235人程度にまで減少することが見込まれます。

少子高齢化を背景とする人口構造の変化や人口減少は、本村における経済活動やコミュニティ活動等の活力を衰退させ、ひいては本村における安定した生活・暮らしそのものの存続を脅かす事態となることが危惧されます。

このような状況認識のもと、国・道の総合戦略を勘案しながら、人口減少に伴う地域課題に対応するために、今後村が目指すべき方向性を示す「第3期 音威子府村まち・ひと・しごと創生総合戦略」(以下、総合戦略)を策定します。

◇対象期間

総合戦略の対象期間は、2025年度から2029年度までとします。

	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
第3期音威子府村 まち・ひと・しごと 創生総合戦略	策定				

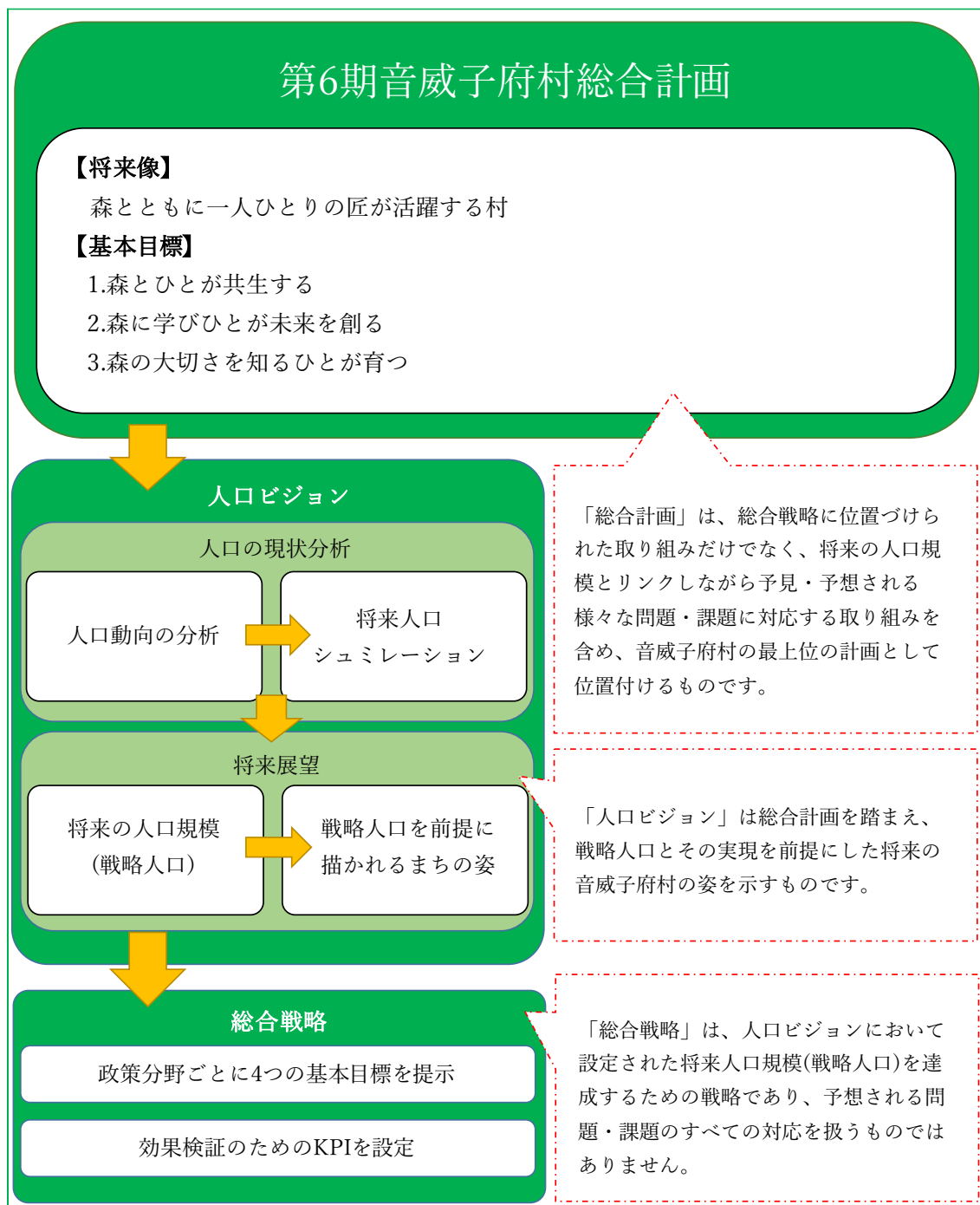


◇音威子府村まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけ

村の最上位の計画として2023年度に策定した「第6期音威子府村総合計画(以下、総合計画)」があり、本村ではこの計画に基づいて、総合的なまちづくりの取り組みを進めています。

総合戦略は、こうした総合計画の取り組みを踏まえ、人口ビジョンで示す戦略人口を達成するために必要な4つの政策分野ごとの基本目標を示すものです。また、各政策分野を構成する施策・事業については、効果を客観的に検証するための重要業績評価指数(KPI)を設定しています。

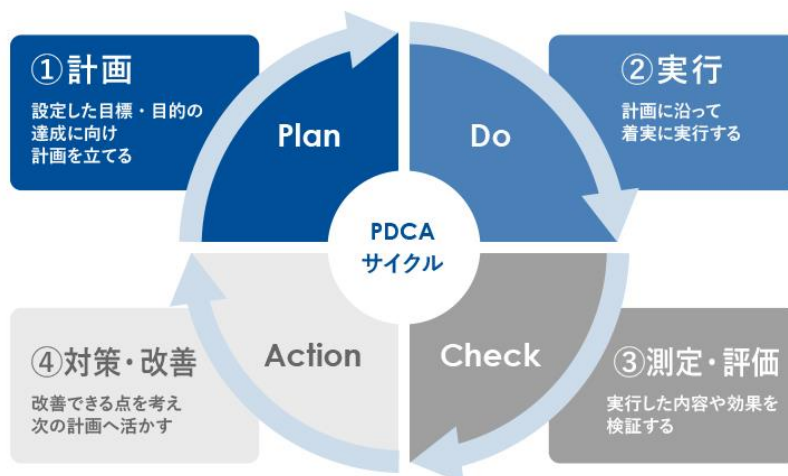
《「人口ビジョン」「総合戦略」と「総合計画」》



◇評価・検証の仕組み

総合戦略については、計画の推進をより実効性あるものとするために、評価・検証とともに、その結果を踏まえ、必要に応じた計画の見直しを行うものとします。

そのため、『PDCA サイクル』による評価・検証の仕組みを確立するとともに、評価・検証の客観性・妥当性を担保するため、外部有識者等の参画する評価・検証組織を設置します。



〈総合戦略における PDCA サイクル〉

- ①総合戦略の策定
- ②施策・事業の着実な実施
- ③実施した施策・事業の効果を KPI 等により検証
- ④必要に応じた総合戦略の策定

II. 音威子府村の総合戦略の基本的な視点

◇音威子府村の強みと人口問題への対応

【音威子府村の特性の検証】

○本村においては、美しく豊かな自然やそこで暮らす人々のやさしさ、あたたかさが村の魅力の基盤となっており、独自の自然環境を活用したスキー・キャンプ場や天塩川温泉、また村の自然環境に魅了された砂澤ビッキのアトリエを活用したエコミュージアムおさしまセンター等の施設は、本村の重要な観光資源となっています。さらに、すでに音威子府ブランドとして認知されている「そば」をはじめ、豊かな自然の恵みから生み出されている特産品は、おといねっふファンの獲得にも寄与しています。



○しかしながら、こうした自然やその活用は村の特性であると同時に、規模や質に差はあるものの、我が国全体、とりわけ北海道においては広くみられる特性でもあり、特に喫緊の人口問題への対応という観点からは、自然やその活用のみを問題・課題解決の根拠・手段とすることは困難であるといえます。

【人口問題への対応の可能性の検証】

○人口減少(人口規模)や少子高齢化(人口構造)の問題に対応するためには、一般論としては出生数の増加へ向けた合計特殊出生率の上昇と、若者を中心とした転入の促進・転出の抑制への取り組みが重要となりますが、本村の人口規模や人口構造を勘案すると、合計特殊出生率が上昇したとしても、大きな人口増加は望めないのが現状です。



○一方で、本村には村立の『おと高』の存在があり、同校には毎年道内外から40人の生徒が入学し、卒業までの3年間を音威子府村の村民として過ごしています。すなわち、本村においては、同校の生徒として毎年15～18歳の若者120人程度が担保されていることとなります。これはすでに、現状の村の人口の約20%を占める規模であり、人口ビジョンで示した戦略人口が実現した場合の2060年においては、同校の生徒が約24%以上を占める状況となることが想定されます。



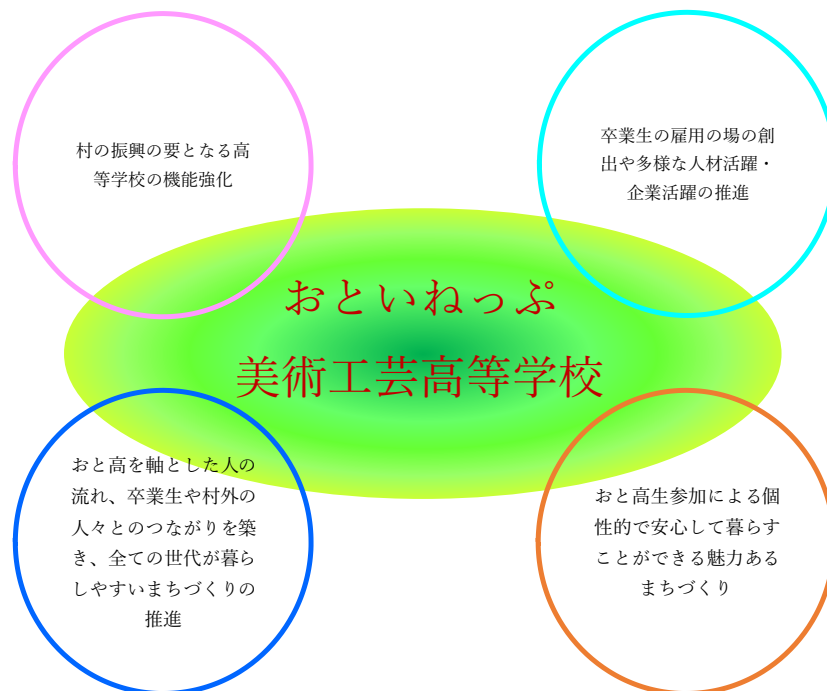
○このような人口構造は、他の自治体にはみられない村独自の特殊性であると同時に、同校の維持・発展および卒業生の定住・Uターン促進へ向けた取り組みを進めることは、人口減少・少子高齢化の問題・課題解決への大きな可能性を含んでいることから、同校の存在は人口問題に対応するための本村における最大の強みであるといえます。

【最大の強みの活用による人口減少の抑制】

- おと高の生徒は、学校や村での生活をとおして、その9割以上が村への愛着を感じるようになり、半数程度は今後も村に住み続けたいと考えているものの、進学のためだけでなく、自分を活かせる就業の場の不足や生活上の不便さ等の理由から卒業と同時に転出する、という実態がこれまでの高校生アンケートや多くの意見から明らかになっており、このことは現在も変わらぬ実態であると判断します。
- すなわち、同校の卒業生の雇用の受け皿や3年間で培った技術や想像力を発揮できる活動の場をつくることに加え、住環境の整備・経済的な支援等を拡充することにより、卒業後の定住だけでなく、進学や就職等で転出した卒業生のUターンを促進し、音威子府村で働き、子どもを産み。育てるという好循環を生み出すことが可能であるといえます。

音威子府村の総合戦略のイメージ

- 音威子府村の総合戦略においては、音威子府村の最大の強みであり、他の自治体にはない独自性や村の未来を担う人材を創り出すポテンシャルという観点から、おと高を中心に置き、すべての基本目標と連動させることとします。
- さらに、国の総合戦略も勘案し、「村の振興の要となる高等学校の機能強化」「卒業生の雇用の場の創出や多様な人材活躍・企業活躍の推進」「おと高を軸とした人の流れ、卒業生や村外の人々とのつながりを築き、全ての世代が暮らしやすいまちづくりの推進」「おと高生参加による個性的で安心して暮らすことができる魅力あるまちづくり」を4つの基本目標として設定します。



- なお、現在村が重点的に推進している「地元企業等への就業者雇用の促進および起業支援、商工業担い手確保」「新規就農者・農業後継者の育成強化」については、総合戦略において、おと高卒業生の雇用の場として位置づけます。

III. 音威子府村の総合戦略

【音威子府村の総合戦略の全体像】

基本目標(数値指標、2029年度)	具体的な施策	重要業績評価指数(KPI)
<p>1. 村の振興の要となる 高等学校の機能強化</p> <p>☆高等学校の入学者数 ⇒年40人</p>	<p>①おと高の仕組みの強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一日体験入学人数 ・地域みらい留学説明会(対面数) ・SNS発信数
<p>2. 卒業生の雇用の場の創出 や多様な人材活躍・企業活躍 の推進</p> <p>☆卒業生の新規就業者数 ⇒5年間で5人</p>	<p>① 地元企業等への就業者雇用の促進及び起業支援、商工業担い手確保</p> <p>②新規就農者・農業後継者の育成強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業への就職者数 ・起業・事業承継者数 ・新規就農者数 ・農業後継者数
<p>3. おと高を軸とした人の流れ、 卒業生や村外の人々とのつながりを築き、 全ての世代が暮らしやすいまちづくりの推進</p> <p>☆卒業生の移住数 ⇒5年間で5人</p> <p>☆作品展の入場者数 ⇒年2,000人</p>	<p>①おと高卒業生のUターンや若者のIターン、新規移住者の定住の促進</p> <p>②おと高を活用した交流拡大と関係人口の創出</p> <p>③学校間連携の強化</p> <p>④安心して結婚・出産・子育てのできる環境の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・短期移住体験者数 ・アーティストを招聘し、おと高生・村民と交流する事業の推進 ・作品展の開催数 ・おと高応援団の加入数 ・交流イベント開催数 ・大学との連携事業数 ・出生率の向上 ・出会いイベントの開催
<p>4. おと高生参加による個性的で 安心して暮らすことができる 魅力あるまちづくり</p> <p>☆おと高生参加まちづくり事業 ⇒年3事業</p>	<p>① おと高生や卒業生のまちづくりへの参加促進</p> <p>② 時代にあった生活基盤の維持・確保、未来技術の活用による地域課題の解決</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・村内公共施設での作品展展示会開催数 ・住民サービスのデジタル化アプリ数 ・デジタルを活用した行政サービス数

1. 村の振興の要となる高等学校の機能強化

☆高等学校の入学者数 36 人(2024 年度)→年 40 人(2029 年度)

現状と課題

おと高の存在は、村の喫緊の人口問題・課題に対応するための最大の強みであり、おと高の維持・発展やそれに伴うおと高生の確保は、村の振興の要であるといえます。そのためには、教育環境の充実等、おと高の魅力向上につながる機能強化が重要となります。

[具体的な施策]

① おと高の仕組みの強化

道内において、入学志願者が多い地区の中学校を中心に訪問し継続的な生徒確保を図るとともに、道内町村立高等学校を設置する自治体との連携を強化いたします。既存概念に捉われず、様々な視点から、おと高の仕組み強化の検討を行います。

また、全国からの入学者も約 2 割程度いることから、「地域みらい留学」事業などをはじめ、高校魅力化に取り組む全国の自治体との連携も図りながら、意志ある若者を継続して呼び込み、持続可能な地域社会を目指すものとします。

現状では、教育環境の充実や、寮生活における生活(食)環境や個別学習環境の整備など、おと高の運営には年間約 3,000 万円程度の自主財源を充当しています。これらのさらなる充実や拡充のために、企業版ふるさと納税制度などさまざまな形での支援や連携を得ながら、おと高の機能強化を目指します。

◎施策の目標

重要業績評価指標(KPI)	現状値(2024年度)	目標値(2029年度)
一日体験入学人数	70人	年60名
地域みらい留学説明会 (対面数)	38件	年30件
SNS発信数	2024年3月開始月8件目標	年100件

主な事業

- おと高振興事業(生徒募集のための中学校訪問)
- 道内の町村立高等学校を設置する自治体と連携した学校紹介、入学案内事業
- 美術工芸教育の質と寄宿舎機能を高める環境の充実事業

- 高校魅力化発信事業への参加、都市部における生徒募集(地域みらい留学フェスタ、彩の国進学フェスタ事業等)
- 生活（食）環境の整備(安心・安全な食事の提供)
- 高等学校、寄宿舎の ICT 化事業の最適化
- 美術工芸実習に必要な専門工作機械類の環境整備
- 教育カリキュラム以外で、他の芸術分野に触れる機会の創出
- 生活（医）環境の整備(安心・安全な医療の提供)
- 地域の防犯・防災体制の推進
- 企業版ふるさと納税活用事業(音威子府村企業版ふるさと納税推進計画)

【期待される施策の主な効果】

- ◇教育環境等の機能強化によるおと高の魅力向上
- ◇おと高生の安心・安全・快適な生活、学習環境の確保
- ◇おと高の魅力をベースとした、一日体験入学等による生徒の確保
- ◇生徒の確保による「おと高」の維持・発展
- ◇SNS によるおと高の魅力発信を通じた、音威子府村の魅力化、維持・発展
- ◇地域社会とおと高の相乗効果の強化
- ◇教育環境の充実とおと高生の創造性向上

2. 卒業生の雇用の場の創出や多様な人材活躍・企業活躍の推進

☆卒業生の新規就業者数 5 人(2020—2024 年度)→5 年間で 5 人

現状と課題

音威子府村では、地域おこし協力隊制度を導入して以降、おと高卒業生の U ターンが徐々に進みつつあります。

このことから、村内の雇用の場の創出をより一層行うことにより、おと高卒業生の定住・U ターンの直接的な効果が見込まれることから、官民との連携を通して雇用の場の創出に早急に取り組むことが求められています。

[具体的な施策]

① 地元企業等への就業者雇用の促進及び起業支援、商工業担い手確保

おと高卒業生のための雇用の場として、地元企業での雇用促進を図ります。

村内に暮らすおと高生はもとより、すべての村民が潤いある生活を送るためには、地元の商業機能は欠かすことができないことから、U ターン、地域おこし協力隊、地域活性化起業人制度を活用し、起業や既存事業の継承を支援し、音威子府村に新しい雇用の場を創出、就職の選択肢を増やすとともに、地域内経済循環を高めていきます。

◎施策の目標

重要業績評価指標(KPI)	現状値(2024年度)	目標値(2029年度)
地元企業への就職者数	6人	5年間で5人
起業・事業承継者数	2人	5年間で2人

主な事業

- 半工制度(1年の半分を美術・工芸等制作活動、1年の半分を商業や農業等に従事)事業
- 音威子府村中小企業振興条例の活用
- 地域おこし協力隊の積極的活用
- 交通ターミナル内空きスペースでの、チャレンジショップ(飲食・観光協会等)の整備
- 二地域居住促進や、コワーキングスペース整備
- 元気で経験のある高齢者の知恵とスキルを活かした事業
- 山菜・郷土料理(家庭料理)を活用した飲食・観光事業
- 北大中川研究林と協同したガイドの育成
- 観光戦略づくり・アウトドア施設キャンプ場の充実
- 体験型観光の推進

- 地域活性化起業人の活用
- 企業誘致を促進し雇用機会の創出
- 【再掲】 企業版ふるさと納税活用事業(音威子府村企業版ふるさと納税推進計画)

② 新規就農者・農業後継者の育成強化

村の基幹産業である農業の振興に向けて、新規就農者や農業後継者、新規就農者等の育成強化を行います。営農実習を指導する指導員や受講者、農業後継者に対し、さまざまな助成制度を活用します。

◎施策の目標

重要業績評価指標(KPI)	現状値(2024年度)	目標値(2029年度)
新規就農者数	0人	5年間で3人
農業後継者数	0人	5年間で2人

主な事業

- 新規就農者対策事業
- 農業後継者対策事業
- 音威子府村農業振興事業
- スマート農業の推進
- 【再掲】 企業版ふるさと納税活用事業(音威子府村企業版ふるさと納税推進計画)

【期待される施策の主な効果】

- ◇おと高卒業生・地域おこし協力隊を中心とした若者の雇用の場の創出
- ◇おと高卒業生の進路の選択肢の拡充による学校の魅力向上
- ◇起業・就業に伴う、おと高卒業生の定住・Uターン
- ◇地域における商業機能の活性化・安定化
- ◇地域経済の多角化と活性化
- ◇若者・高齢者の地域参画の促進
- ◇地域資源を活かした環境教育と観光ガイドの育成
- ◇企業誘致による持続可能な地域経済の基盤強化
- ◇農業・商工業の後継者確保

3. おと高を軸とした人の流れ、卒業生や村外の人々とのつながりを築き、全ての世代が暮らしやすいまちづくりの推進

☆卒業生の移住数 6 人(2020－2024 年度)→5 年間で 5 人

☆作品展の入場者数 2,000 人(2024 年度)→年 2,000 人(2029 年度)

現状と課題

生活の不便さは、地域に定住する上で、重要な課題であるといえます。住環境整備や経済的な支援により、一般的な生活をする上での、不便さの解消が求められます。あわせて、利便性の高い札幌市や東京都などの都市圏にない、音威子府村らしい魅力を高め、村への人の流れを生み出すという観点から、地域資源の一つであるおと高を活用した、地域内外との交流の拡大やおと高の PR 強化が重要になります。

[具体的な施策]

① おと高卒業生の U ターンや若者の I ターン、新規移住者の定住の促進

新しい産業・既存産業の雇用の受け皿を活用した移住・定住促進に加え、現在も実施している 短期移住体験住宅の効果的な活用を進めます。

さらには、村内の創作活動の拠点となるような、工房・コワーキングスペースが併設されたシェアハウスの確保、移住者が「暮らしたい」と思えるような住宅環境の整備等、おと高卒業生の U ターンや新規移住者の多様なニーズに対応した移住・定住施策を促進します。

◎施策の目標

重要業績評価指標(KPI)	現状値(2024年度)	目標値(2029年度)
短期移住体験者数	5年間で8人	5年間で10人
アーティストを招聘し、おと高生・村民と交流する事業の推進	5年間で8人	5年間で50人

主な事業

- 卒業生等の U ターン・移住者の I ターン促進事業
- 短期移住者の受け入れ事業
- 大学、大学院などの研究室等との連携事業
- アーティストを招聘し、おと高生・村民と交流する事業の推進

- 創作活動およびギャラリー・コワーキングスペース等、拠点機能を持つシェアハウス等の整備促進
- 卒業生等がデザインを手がけた特産品の開発販売
- 卒業生等が関わる体験学習機会の創出
- 移住住宅環境の整備、リフォーム・民間アパート・空き家バンクの活用による魅力的な住宅の確保
- 村ホームページやSNS、メール配信等による行政情報発信の充実とデジタル活用支援による情報格差の解消
- 定住・二地域居住に向けた移住定住プロモーションの推進
- デジタル活用も含めた防犯対策の推進
- インターンシップ受け入れ拡大
- 【再掲】 地域おこし協力隊の積極的活用
- 【再掲】 生活（医）環境の整備（安心・安全な医療の提供）
- 【再掲】 企業版ふるさと納税活用事業（音威子府村企業版ふるさと納税推進計画）

② おと高を活用した交流拡大と関係人口の創出

これまで実施してきた、旭川市や札幌市での生徒作品展示（木の手づくり展）に加え、国内主要都市圏や全国各地において、生徒や卒業生の作品展示、ないしはPRを行うことにより、高等学校の魅力を広く発信します。あわせて、国内外で活躍するおと高卒業生や大学生、若者が集うワークショップなどを開催することにより、さまざまな人々がより深く、高等学校や村とのつながりを持つことにより、おと高を活用した関係人口の創出を目指します。

また、おと高をはじめ、音威子府村の特色である美術工芸（エコミュージアムおさしまセンター・木遊館等）・農産物・特産品・鉄道などの現在ある地域資源を複合的に活かし、SNS等の情報発信力を強化し、あらたに音威子府村を知って頂く機会を創出、国内外からさまざまな形で応援して下さる個人、民間企業、大学、自治体などの皆さんとの、つながりの機会を強化することにより、相互に連携し合い、交流の拡大や関係人口の創出を目指します。

◎施策の目標

重要業績評価指標(KPI)	現状値(2024年度)	目標値(2029年度)
作品展の開催数	16回※2023年実績値	年20回
おと高応援団の加入数	137人	5年間で200人(個人+団体)
交流イベント開催数	8回※2023年実績値	年5回

主な事業

- 主要都市圏や小規模自治体等での木の手づくり展開催
- 小さな村 g7 サミット事業を通じた交流促進

- 多様な大学生や若者が集うワークショップの開催(交流イベント)
- 木遊館ブランドの確立、入館者数のアップ(新たなキット等の開発)
- 高規格道路(音中バイパス)完成による、広域観光の向上
- おと高応援団の継続的な活動の促進
- エコミュージアムおさしまセンター等、美術工芸施設を利用したイベントの促進
- 【再掲】企業版ふるさと納税活用事業(音威子府村企業版ふるさと納税推進計画)

③ 学校間連携の強化

これまで継続してきた、東海大学との共同によるデザインスクール実施をはじめ、道内や全国各地の大学、大学院などとの連携を図り、おと高の魅力化を進めます。

◎施策の目標

重要業績評価指標(KPI)	現状値(2024年度)	目標値(2029年度)
大学との連携事業数	年3回	年4回

主な事業

- 高大連携事業(東海大学との連携事業の実施)
- おと高振興事業
- 【再掲】多様な大学生や若者が集うワークショップの開催(交流イベント)
- 【再掲】企業版ふるさと納税活用事業(音威子府村企業版ふるさと納税推進計画)

④ 安心して結婚・出産・子育てのできる環境の整備

新たな人の流れを活かし、次世代を担う若者が地域の将来の語らいの中から出会いの機会を創出し、村での結婚や子供を持つ希望を叶えられるよう、出会いや安心して出産できる環境を創出し、音威子府村に若年層の定住を促進するための住みやすい環境を整えます。

◎施策の目標

重要業績評価指標(KPI)	現状値(2024年度)	目標値(2029年度)
出生率の向上	0.16%	0.50%
出会いイベントの開催	—	年1回

主な事業

- 女性が活躍できる就労の場づくり
- 音威子府村幼児センターの充実・振興
- 音威子府村立音威子府小中学校の充実・振興
- 教育機関における給食の導入
- 子供たちの安全のための放課後こども教室の充実
- 子供たちのためのスポーツ環境の整備
- 北大中川研究林と協同し、自然観察会や総合学習の充実
- 人々の出会いの場の創出、出会い(マッチング)応援
- 【再掲】 企業版ふるさと納税活用事業(音威子府村企業版ふるさと納税推進計画)

【期待される施策の主な効果】

- ◇多様な生活空間の提供によるおと高卒業生の U ターン、若者等の定住 I ターン
- ◇おと高の PR による音威子府村の地域ブランドの向上
- ◇おと高を中心とした関係人口の拡大
- ◇音威子府村の魅力向上に伴う本村への新しい人の流れの創出
- ◇創造性と文化交流の推進による地域文化の発展
- ◇地域ブランドの確立と観光誘致の強化・広域観光ネットワークの向上
- ◇教育・研究機関との連携による知的資本の活用
- ◇子供たちの成長環境の向上
- ◇自然教育の推進と環境意識の向上

4. おと高生参加による個性的で安心して暮らすことができる魅力 あり るまちづくり

☆おと高生参加まちづくり事業 年3事業(2024年度)→年3事業(2029年度)

現状と課題

おと高は、芸術の村である本村の顔であり、木工芸や絵画等の美術に特化した独自の学びを求めて、道内外から集まる生徒の存在や、彼らの作品は、村民の大きな自慢となっております。一方で、作品展示の現状は、校内ロビーでの常設のほかは、音威子府村公民館や木の手づくり展での特別展が主でありました。近年はエコミュージアムおさしまセンター・交通ターミナル・役場庁舎・天塩川温泉と展示できる場を増やしている実績はあるが、もっと多くの方に触れてもらう機会を増やすことが望まれます。

官民連携し生徒の作品の商品化や、ふるさと納税の返礼品等、作品やおと高生の創作能力をまちづくりの中に、さまざまな形で活用できると考えられます。また、村民とおと高生との交流の場や機会も限定的であることから、新たな交流の場や機会づくりも望まれます。

① おと高生や卒業生のまちづくりへの参加促進

[具体的な施策]

おと高生と村民との交流の場や機会をつくるために、現在も行われている全村民参加の村民運動会や、公民館での作品展示をはじめとし、村内で行われるさまざまなまちづくりプロジェクトとの連携から、おと高生のまちづくり参加を図り、交流を促進します。また、おと高生が「デザイン」を通じて、企業との連携による木工芸品・美術作品の開発や、ふるさと納税返礼品への活用など、卒業後の起業やアーティストとしての独立へのきっかけ、地元商工業の新規開拓へとつながるような試みを展開することにより、これまでになく魅力あるまちづくりを目指します。あわせて、国内外で活躍するおと高卒業生とのつながりの場づくりを進め、作品の展示や販売機会の検討など、相互に協力できる機会を創出します。

◎施策の目標

重要業績評価指標(KPI)	現状値(2024年度)	目標値(2029年度)
村内公共施設での作品展示会開催数	13回※2023年実績値	年15回

主な事業

- 公共施設を活用した作品展示公開事業

- おと高生がデザインした作品の商品化事業(起業家精神の向上)
- おと高卒業生等の作品紹介および販売事業
- ふるさと納税返礼品に、おと高生の作品採用
- おと高生が、創作活動の範囲内で行う地域課題解決に向けた取り組み
- 多文化・多世代共生のまちづくり
- おと高卒業生作品の委託販売事業の拡充
- 【再掲】 企業版ふるさと納税活用事業(音威子府村企業版ふるさと納税推進計画)

② 時代にあった生活基盤の維持・確保、未来技術の活用による地域課題の解決

誰もがいつまでも安心して音威子府村で暮らせるように、必要な生活基盤や公共施設の維持、確保を進めます。道路をはじめとする交通環境のほか、社会インフラ等の生活基盤の整備、地域の拠点となるコミュニティセンター、防災体制や施設の維持・拡充を行います。

また、IoT、ロボット、人口知能、ビッグデータなど、社会の在り方に影響を及ぼす技術が進展し、新しい価値やサービスが人々に豊かさをもたらす Society5.0 時代に突入していることから、人口減少・労働力不足解消のため、未来技術を導入し地域課題の解決へ活用します。

◎施策の目標

重要業績評価指標(KPI)	現状値(2024年度)	目標値(2029年度)
住民サービスのデジタル化 アプリ数	0件	1件
デジタルを活用した行政 サービス数	0件	1件

主な事業

- 防災体制の強化・救急搬送体制の強化
- 特定健康診査の受診率向上
- 除雪体制の確保
- 必要となる公共施設の整備、長寿命化
- 地方創生 SDGs の実現などの持続可能なまちづくり
- 高齢者への見守り支援
- 高齢者に向けたデジタル活用支援の推進
- メール配信サービスや SNS 等による防災情報の積極的な周知
- 住民サービスのデジタル化・デジタルを活用した利便性の向上
- デジタルを活用した行政の効率化、ペーパーレス化、事務作業軽減により、さらなる住民サービスの向上

- デジタル活用・情報発信力強化(SNS等)で人を呼び込む(効果的な情報発信)
- 【再掲】企業版ふるさと納税活用事業(音威子府村企業版ふるさと納税推進計画)

【期待される施策の主な効果】

- ◇デザインを通じたおと高および音威子府村の魅力向上
- ◇おと高生および卒業生と企業との連携による、地域内循環経済の活性化
- ◇若者の起業精神と自己実現の支援
- ◇新たな特産品開発による、ふるさと納税の魅力化
- ◇住民の安心・安全の強化
- ◇高齢者の生活支援と社会参加の促進
- ◇デジタル化による利便性・効率性・安心感の向上

第3期 音威子府村

まち・ひと・しごと創生総合戦略

令和7年3月

編集・発行：音威子府村役場 総務課

〒098-2501 北海道中川郡音威子府村字音威子府 444 番地 1

TEL:01656-5-3311 FAX:01656-5-3837